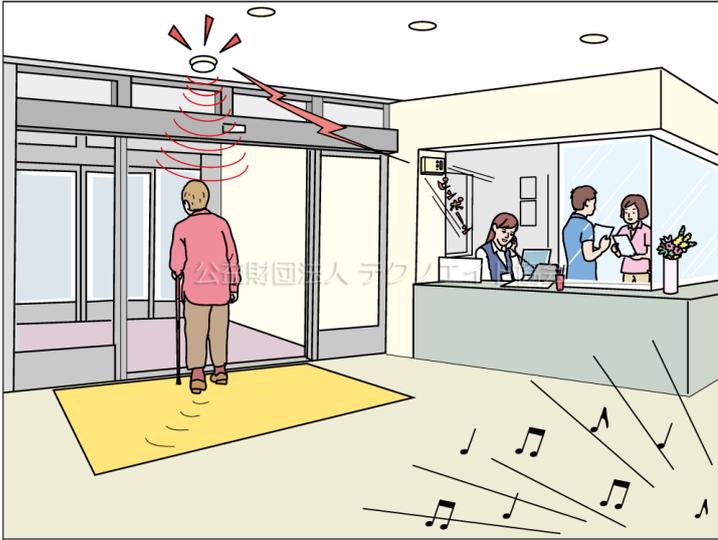


Case : 359

施設入口の徘徊感知機器の音に気が付けず、屋外を徘徊していた

場面の説明

施設入口の徘徊感知機器の音に気が付けず、認知機能の低下した高齢者が、屋外を徘徊していた



利用シーン	 その他
主な利用場所	 玄関
介護保険の種目	 認知症徘徊感知機器
分類コード (CCTA95)	215190 (徘徊老人監視システム)
介護テクノロジー	 見守り・コミュ（施設）
二次元バーコード	

解説

職員が他の作業をしていて、玄関の徘徊感知機器の音に気が付けなかった事例です。徘徊感知機器は電源直結のものもありますが、電池式の場合、いつの間にか電池が弱くなり、音が小さくなったり、ならなくなったりします。定期的な音量チェックが必要です。

参考要因（要因の例であり、これだけが正解ということではありません）

- 人：センサーの音量チェックができていなかった
- 人：騒がしい状況での作業により、機器の音が聞こえなかった。
- 環境：まわりが騒がしかった

日付：	所属：	氏名：
-----	-----	-----

Case : 359

施設入口の徘徊感知機器の音に気が付けず、屋外を徘徊していた

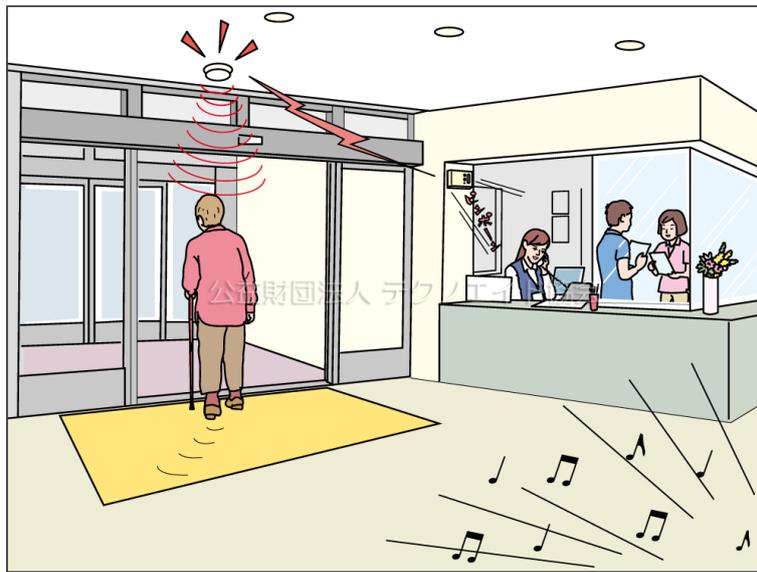
事例詳細



回答前に見ないこと

場面の説明

施設入口の徘徊感知機器の音に気が付けず、認知機能の低下した高齢者が、屋外を徘徊していた



どのような要因が考えられますか？	どのような対策が必要でしょうか？
人（本人・介護者・関係者）の要因	
モノ（福祉用具）の要因	
環境の要因	
管理の要因	

メモ